

## アオキの花は春、葉は夏、実は冬の季語(俳句)

小 関 栄

わが家の庭にアオキ(青木)の木がある。四季を通して青々としたミズキ科の常緑低木、名前のおり枝の根元まで青い。珍しく雌雄異株で、雌木は春に花が咲き、夏には青玉に、晩秋になると次第に赤くなり、冬には千両の実より大きな鮮やかな赤玉になる。また、葉は何時でも光沢があり緑で大きく斑入りもあるので庭木として珍重されている。別名でアオキバともいうが、その常緑の葉が称えられて、名付けられた由来だろう。



漢名は山茱萸(サンシュユ)であり青木(セイボク)である。また、葉がサンゴのように美しいので、葉を愛でて日本桃葉珊瑚(riben taoye shanhu)とも云うそうだ。

(上は我が家の庭のアオキ、3/22 撮影、左下はその実 1/20 撮影)

霜の庭 緑の葉かげに アオキの実 淡水

## 台湾留學生が見学に来る

小 関 栄

国立台湾大学大学院の留學生、劉崇宇、李文馨(人類学博士課程)が花のむらの光陽の里と倉馬の里の見学に来訪された。李文馨は三年前に我家に泊って農村文化研究と農業実習のために来ていたので、同僚の劉崇宇を誘って見学に来たのであった。光陽の里では石樽良雄さんの農園を見た後、倉馬の里で藤本将さんの案内で農園とワラビ園と椎茸と花壇を見た後、池上隆之さんの指導で蕎麦蒔きの体験をした。昼は里山倶楽部の人たちと食事をしながら懇談会をした。午後は MOA 事業団の山崎敏光さんと鈴木修さんの農場を見て帰った。

この二人の留學生は我が家に二泊したが、夜は遅くまで、この農園を見学した感想などパソコンに整理入力して参考資料としていた。二人とも大変に勉強熱心なのに大いに感心した。

(写真は農園で勉強している留學生)

